

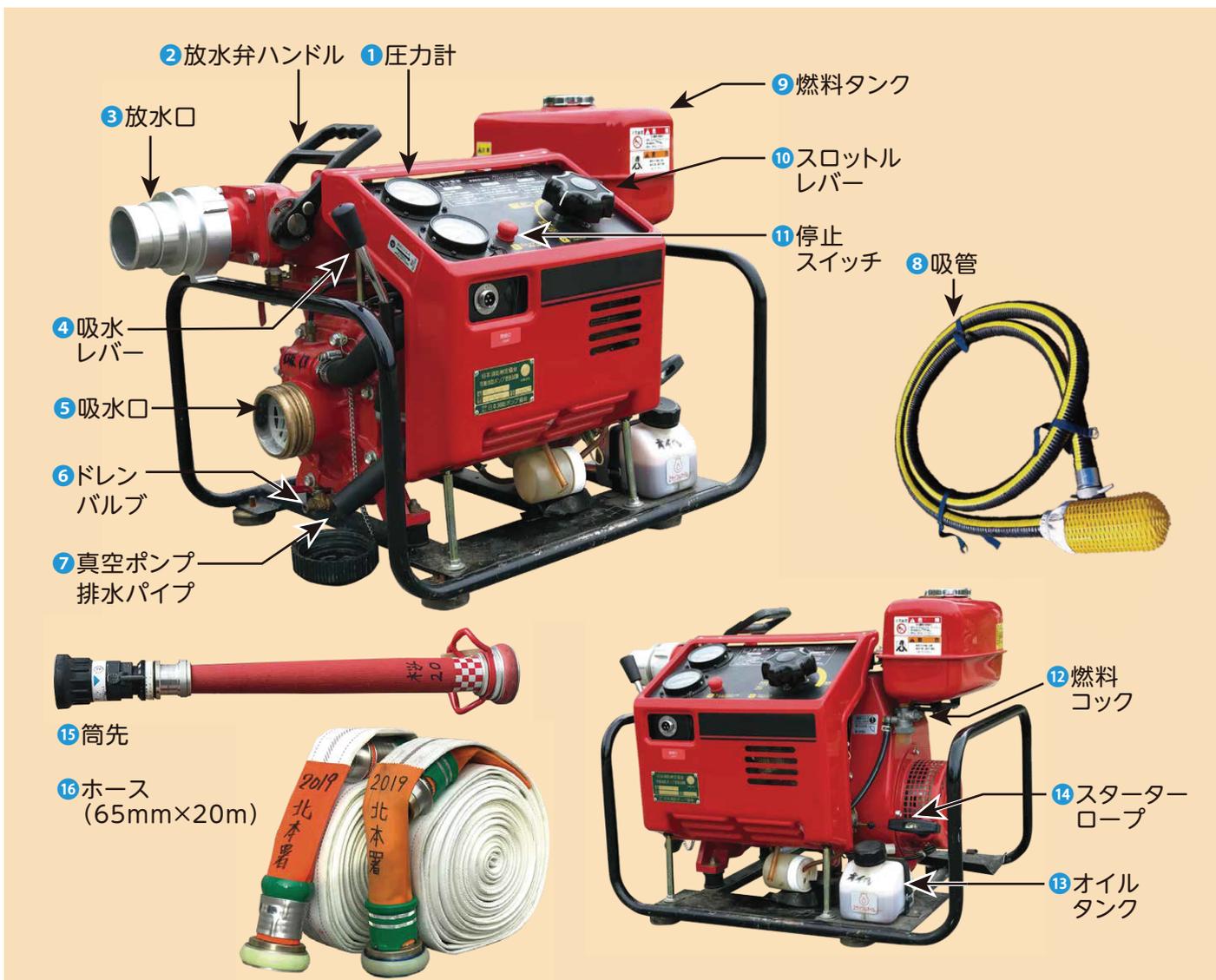
3 可搬動力ポンプの使い方



1 各部の名称と性能

可搬動力ポンプは、防火水槽などの水源から吸管で水を吸い上げ、吸った水をポンプで加圧してホースへ送ることで、1分間に約 500ℓ以上(C級ポンプ)の放水ができる資機材です。消火能力が高く、初期消火の範囲を超えた火災にも対応することができます。

■構造説明



各部の名称		各部説明
ポンプ部	① 圧力計	ポンプ圧力が表示されます。
	② 放水弁ハンドル	放水を開始するときには開き、停止するときには閉めます。
	③ 放水口(差込式)	放水するためのホースをつなぎます。
	④ 吸水レバー	水源の水をポンプに吸い上げるために操作します。
	⑤ 吸水口(ねじ式)	防火水槽等の水源から吸水するための吸管をつなぎます。
	⑥ ドレンバルブ	ポンプ内部の水を排水するときには開きます。
	⑦ 真空ポンプ排水パイプ	吸水時に、水が出ているかを確認します。
	⑧ 吸管	防火水槽等の水源から吸水するためのものです。

	各部の名称	各部説明
エンジン部	⑨ 燃料タンク	ガソリン等の燃料を入れておきます。
	⑩ スロットルレバー	エンジンの回転数を調整します。
	⑪ 停止スイッチ	エンジンを停止します。
	⑫ 燃料コック	エンジンへ燃料を送るパイプ管の開閉を行います。
	⑬ オイルタンク	2サイクルエンジンオイルを入れておきます。
	⑭ スターターロープ	引っ張ることによりエンジンを始動します。
	⑮ 筒先	ホースの先に取り付け、放水量や放水形状を調整できます。
	⑯ ホース	口径が65mmで長さが20mの消火用ホースです。

2 操作の流れ

吸水の操作

- ① 防火水槽の蓋を開け、中に水があるかを確認する
- ② 吸管を、可搬動力ポンプの吸水口に取付ける
- ③ 吸管を伸ばして、防火水槽に投入する
- ④ 燃料コックを開き、燃料を送る
- ⑤ スロットルレバーを「始動の位置」に合わせる



ポンプ始動操作

- ⑥ スターターロープを引き、エンジンを始動する
- ⑦ 吸水レバーを吸水側に操作する

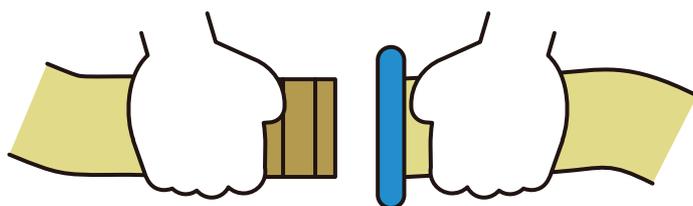


ホースの延長

- ⑧ ホースを延長する
- 必要に応じて
- 2本目以降のホースを延長
 - ホースとホースを結合する

【ホース延長補助】

- ⑨ ホースを可搬動力ポンプに結合する
- ⑩ ホースに筒先を結合する
- ⑪ 火元に向かい、余裕ホースを確保する





放水・停水操作

⑫放水はじめの合図

【放水開始伝達】

⑬可搬動力ポンプの放水弁を開ける

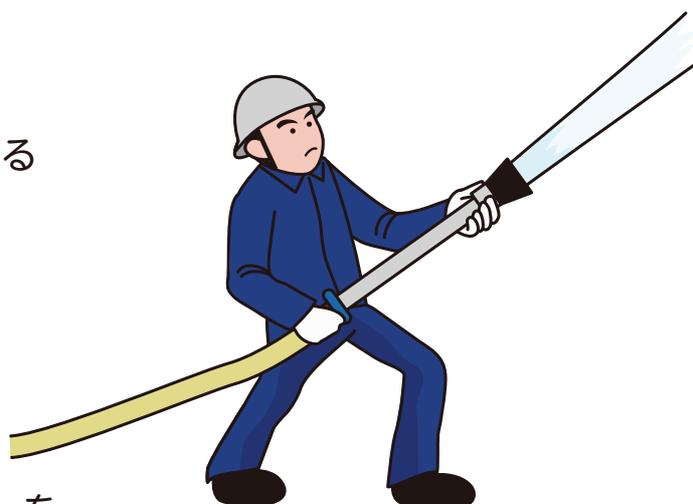
⑭放水開始

【放水補助】

⑮放水の必要がなくなれば、筒先の放水を停止する

【放水停止伝達】

⑯可搬動力ポンプのスロットルレバーを「低速」の位置にする



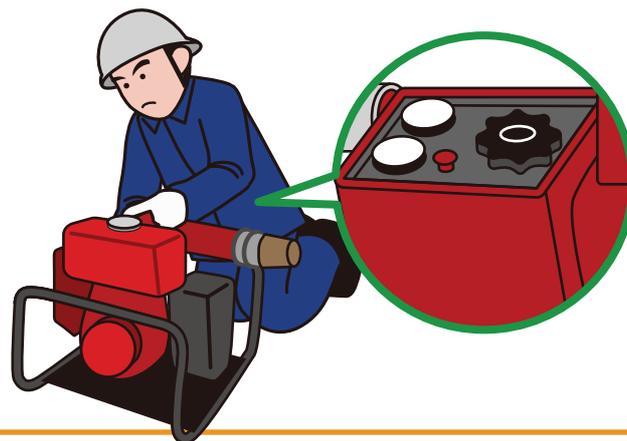
ポンプ停止操作

⑰放水弁ハンドルを閉める

⑱停止スイッチを長押しする

⑲燃料コックを閉める

⑳放水弁とドレンバルブを開いて排水し、再度放水弁を閉じる



3 吸水から放水までの流れ



4 可搬動力ポンプの操作手順

吸水の操作



① 防火水槽の蓋を開け、中に水があるか確認する

防火水槽の蓋はさまざまです。それぞれの開け方は 12 ページをご覧ください。

- 蓋を開ける時は、周囲の安全を確認し、膝を曲げて腰を低くし怪我をしないように開けましょう。
- 蓋を開ける時には、足の位置に要注意。蓋が倒れても挟まれない位置に置きましょう。

MOVIE



② 吸管を可搬動力ポンプの吸水口に 取り付ける

- 吸水口はねじ式です。吸管は、ねじ穴をつぶさないように、真っ直ぐ、確実に取付けましょう。緩んでいると吸水ができません。

③ 吸管を伸ばして防火水槽に投入する

- 吸管は、空気を吸い込まないように、先をしっかりと水の中に沈めます。
- 吸管に曲がりやねじれがないようにしっかり伸ばしましょう。



MOVIE



● 防火水槽への転落にはご注意!

防火水槽は深く、落ちると危険です。消火作業中は、作業員や通行人が転落しないようにロードコーンや照明などで注意を促しましょう。



4 燃料コックを開き、燃料を送る



5 スロットルレバーを「始動（吸水）」の位置に合わせる



ポンプ始動操作



6 スターターロープを引き、エンジンを始動する

● ロープを引くときは、後方に人がいないかを確認しましょう。



7 吸水レバーを吸水側に操作する

● 真空ポンプ排水パイプから水が連続的に出るのを確認しましょう。吸水ができています。圧力計指針の上昇も合わせて確認しましょう。

● 排水パイプから水が出ない場合は、吸水ができていない状態ですので、次の事項を確認しましょう。

- ✓ 吸管は可搬動力ポンプに確実に結合できているか。
- ✓ 吸管は防火水槽の水の中に投入できているか。
- ✓ ドレンバルブが閉じているか。



ホースの延長



⑧ ホースを延長する

- ホースを延ばす前に、前方に人や障害物がないかを確認しましょう。
- 火災現場までの距離に応じて、2本目以降のホースも延ばします。

MOVIE



⑨ ホースを可搬動力ポンプの放水口に結合する

- ホースの結合部分は差込み式です。結合は「カチッ」と音が出るまで差し込んでください。
- 結合後は、ホースを引っ張り確実に結合できているかを確認しましょう。

MOVIE



⑩ ホースに筒先を結合する

- 結合は「カチッ」と音が出るまで差し込んでください。
- 写真のように、ホースの先を足で軽く踏み、結合部分を斜め上に向けると結合がしやすいです。
- 結合後は、筒先とホースを引っ張り確実に結合できているかを確認しましょう。

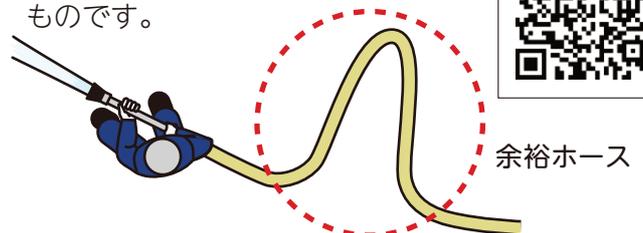
MOVIE



⑪ 火元に向かい、余裕ホースを確保する

- 余裕ホースとは、放水時の反動を防止したり、火災の状況に応じて筒先を移動できるように確保するものです。

MOVIE



余裕ホース

放水・停水操作



12 放水はじめの合図

- 放水の準備ができれば、可搬ポンプの操作担当者に「放水はじめ!」と伝えましょう。

MOVIE



【放水開始伝達】

- 可搬ポンプの操作担当者が見えない場合は、誰かに伝えてもらいましょう。
この場合、「放水はじめ」と腕を真っ直ぐ上に伸ばして伝えましょう。

MOVIE



13 可搬動力ポンプの放水弁を開ける

- 放水はじめの合図が確認できたら、放水弁を開けましょう。
- 放水弁はゆっくり開けましょう。一気に開けると、放水担当者が反動を受けて危険です。

MOVIE



14 放水を開始する

- 筒先を目標に向け、腰の位置でしっかり保持しましょう。
- 補助者がいる場合は、放水担当者の後方から保持を支援しましょう。(MOVIE②参照)
- 補助者は、ホースの折れがあれば延ばしましょう。

MOVIE①



MOVIE②





15 放水の必要がなくなれば筒先の放水を停止する

- 放水の必要がなくなれば、放水を停止し、可搬ポンプの操作担当者に「放水やめ!」と伝えましょう。



■筒先の仕組み



【放水停止伝達】

- この場、可搬ポンプの担当者に「放水やめ!」と腕をまっすぐ横に伸ばして伝えましょう。
- 可搬ポンプの操作担当者が見えない場合は、誰かに伝えてもらいましょう。



16 可搬動力ポンプのスロットルレバーを「低速」の位置にする

- 放水やめの合図が確認してから、操作をしましょう。
- 圧力計の指針が低圧になることを確認しましょう

ポンプ停止操作



17 放水弁ハンドルを閉める



18 停止スイッチを長押しする



19 燃料コックを閉める



20 放水弁とドレンバルブを開いて排水し、再度放水弁を閉じる

燃えている建物に近づきすぎない

燃えている建物に近づきすぎると、噴出する火災や瓦などの落下物により、やけどやケガをするおそれがあります。イザという時の逃げ道を確保しながら、路上や屋外から放水しましょう。

風が強いときは、風上から

風が強いとき、風下には火が回る危険があります。安全な風上から放水します。

